

令和5年度 東部特別支援学校 第1回学校運営協議会
第1回学校関係者評価委員会 報告

- 1 日時 令和5年5月15日(月) 午前10時から正午まで
2 会場 静岡県立東部特別支援学校 会議室
3 参加者

(1) 外部委員

- ・伊豆市児童発達センター長 (会長)
- ・相談支援事業所リベルテ主任 (副会長)
- ・寺家区長
- ・韮山ライオンズクラブ会長
- ・伊豆医療福祉センター サポートセンター みらいず 相談支援専門員
- ・東部特別支援学校同窓会コスモ代表
- ・東部特別支援学校PTA会長

(2) 校内職員

- ・校長 副校長 教頭 事務長 学部主事 教務課長

4 会議次第

- (1) 校長挨拶
(2) 委員の任命、会長・副会長の選出
(3) 令和5年度の学校概要、グランドデザイン、学校経営計画(重点項目)について
(4) 授業参観
(5) 協議
 - ・今年度の学校経営について
 - ・昨年度の地域との教育活動(各学部より)

5 会議報告

I 令和5年度の学校経営計画等について

- ・校長より グランドデザイン、学校経営計画の説明

以前、委員さんより目標が抽象的で評価できるかという意見をいただいた。自分は本校に校長として勤務して3年目となるので、できるだけ具体的に評価しやすいような目標を立てるようにした。

(学校経営計画のゴシック太字で記してある今年度の重点目標を中心に説明。)

III 協議(会長による司会進行)

(1) 今年度の学校経営について

- ・生徒一人一人の様子が違うので、先生たちの苦労がうかがえる。子どもがみんなよい顔をしていた。子どもたちから声を掛けてくれ、自分から接しようとする姿が愛おしい。
- ・施設が使いやすく、明るくなってとてもよい学校だと感じた。普段、学校の前は通るけど、校内の様子を見ることはないので、今日見たことを共有し、先生方や子どもたちのお手伝いができたらいい。
- ・初めて生徒と接し、生徒ごとに学習指導を行ったり、縦や横のつながりを考えて指導をしたりしていると感じた。日常生活を体験させる活動をしていた。寺家区としても

協力していきたい。

- ・生徒と先生がマンツーマンで接し、充実した教育を行っていた。廊下に掲示されていたプロフィールから生徒たちは、いろいろな地域から来ていることが分かった。福祉サービスを通して、生徒の生活を支えることで、学校教育を支えることにつながっていくと考えている。
 - ・新校舎に移って、先生たちのやる気も高まっているように感じる。先生たちの働きかけによって子供一人一人が考えて行動する姿が見られた。教具や道具も揃えられている。スクリーンで読み聞かせをすることで、視力の弱い子も見やすい。必要なものをそろえていくことも大切。
 - ・「学校のよいところ」について、PTA でワークショップを行った。校舎や設備などのハード面でよい意見が多かった。長い廊下を生かした歩行訓練等、個別支援もしている。ハード面がそろふことで、充実した授業ができていると感じている。校舎が新しくなった恩恵を受けている。今後は保護者として要望だけでなく、できていることを一緒にすり合わせてやっていきたい。先生方にもワークショップの掲示物を見てほしい。ソフト面の先生方の丁寧な子どもへの関わりがありがたい。
- (校長) コロナ予算から電子黒板などの設備がそろってきている。旧校舎は採光等、今よりもよくなかった。全体的に暗かったので、顔が暗く見え、そう思われた原因かもしれない。
- ・古い校舎に比べて、今の方が教室の数多くて、授業の準備ができる部屋もあってよい。
- (校長) 旧校舎からの移転の際、不用品を片づけて整理し、よい方向に改善できた。

(2) 昨年度の地域と関わる教育活動の紹介 (各学部より)

<小学部>

- ・アスルクラロ沼津と体育の授業で交流を行った。
- ・居住地校交流では、韮山小の友達と授業だけでなく、遊びを通しての交流も行った。
- ・地域探索では、願成就院や韮山図書館に行って、地域の様子について学習した。

<中学部>

- ・中学部では、韮中に育てたひまわりを持っていき、感想や咲いた花の絵を描いてもらった。長井崎中にもひまわりを持って行った。大河ドラマ館には本校のパネルを置いて、ひまわりを見た方にシールを貼ってもらった。
- ・図書館には生徒が作ったしおりを置いてもらった。100 枚置いたが、すぐに持って行ってくれ、感想もたくさんもらった。

<高等部>

- ・田方農業高校との交流では、花植えや藍染めを zoom 交流で行った。
- ・伊豆中央高校の野球部との交流では、練習の様子を見せてもらったり、一緒にポッチャをやったりした。応援メッセージを高校野球のベンチに飾ってくれた。
- ・あゆみ保育園には風車やブンブンゴマなどのおもちゃを持って行って、一緒に遊んだ。
- ・トマト農園への校外学習では、働く人へのインタビューをした。

- ・事務室に届いた使用済みの切手を社会福祉協議会に届ける活動を行った。
- ・昨年から校内実習を行っている。伊豆食品様に協力いただき、ジャムを袋詰めして届けた。ペットボトルのラベルはがしや空き缶をつぶして、リサイクル活動も行った。

(3) 感想、意見など

- ・授業を工夫されていて、楽しそうに子どもたちが取り組んでいた。先生たちは異動があり、支援を積み重ねていくことの大変さを感じる。福祉の現場でも異動があるが、積み重ねていくことに疲れてしまわないように、お互いフォローをしていくことが大切だと思っている。
- (校長) 教職員の人材育成、専門性の継承については研修も行うが、日常的な学びあいのため、中学部では、授業の準備を指導チームで一緒にやるようにした。
- (中学部主事) 授業を中心に進める教員だけに任せっきりにならないように、チームで取り組むことを意識している。話し合う時間が減ってきているので、短時間でも声を掛け合うことが大切と考えている。
- (校長) 学部主事を中心に、普段の生活の中に相互支援を入れ込んでいきたい。他の学校種に比べて、特別支援学校は精神的な疾患で休む職員が多い傾向がある。環境にゆとりがある方が心の面でもよいということもあるようで、本校は良い環境にあり、ありがたいと感じている。

6 会議、授業参観の様子



7 次回の予定

第2回学校運営協議会

令和5年10月30日(月)

午前10時から正午まで